



護岸はどのような色や形状であれば、周囲の景観と調和するでしょうか？



灰色や黒色のような暗い色で、表面に凹凸があれば、周囲の景観と調和するようです。

背景と目的

河川改修において、護岸にはコンクリートブロックがよく用いられてきました。その結果、自然河岸ではあまり見られない素材が表面に広く露出し、河川景観を悪化させています。このため、護岸を設置する際は、周囲の景観と調和させる必要があります。そこで、護岸がどのような色であれば、人は護岸が周囲の景観と調和していると感じるのかを知るために、アンケート調査を行いました。

方法

アンケート調査には、色が異なる往復石積を模したコンクリートブロック積擁壁を用いました。護岸の玉石の色を白色（明度8）、灰色（明度5.5）とした2タイプの護岸（写真1および2）について、周辺の景観に馴染んでいるかどうか、下記の内容で、114名に5段階評価していただきました。

1. よく馴染んでいる
2. まあまあ馴染んでいる
3. どちらとも言えない
4. あまり馴染んでいない
5. 全く馴染んでいない

参考：明度の数値は、色の明るさを示しており、数値が大きいほど明るく、黒は明度0、白は明度10です。

結果と考察

5段階評価での回答の割合を図に示しました（図1）。白色（明度8）と灰色（明度5.5）を比較すると、白色は「全く馴染んでいない」「あまり馴染んでいない」とする答えが7割に達していたのに対し、灰色は「よく馴染んでいる」「まあまあ馴染んでいる」とする答えは7割程度でした。本アンケートは2種類の明度しか対象としていないため、この結果から適切な明度の値を設定することは難しいですが、灰色や黒色といった暗い色（明度6程度以下）であれば、概ね周囲の景観に馴染むと考えられます。

また、護岸の表面に凹凸を付けると、護岸の人工的な印象を緩和する効果に加え、陰影により護岸全体の明度を下げる効果もあり、周囲の景観に、より馴染みやすくなると考えられます。



写真1 アンケートに用いた護岸（近景）

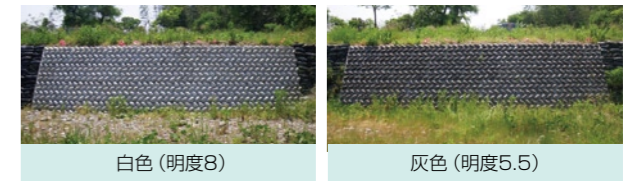


写真2 アンケートに用いた護岸（遠景）

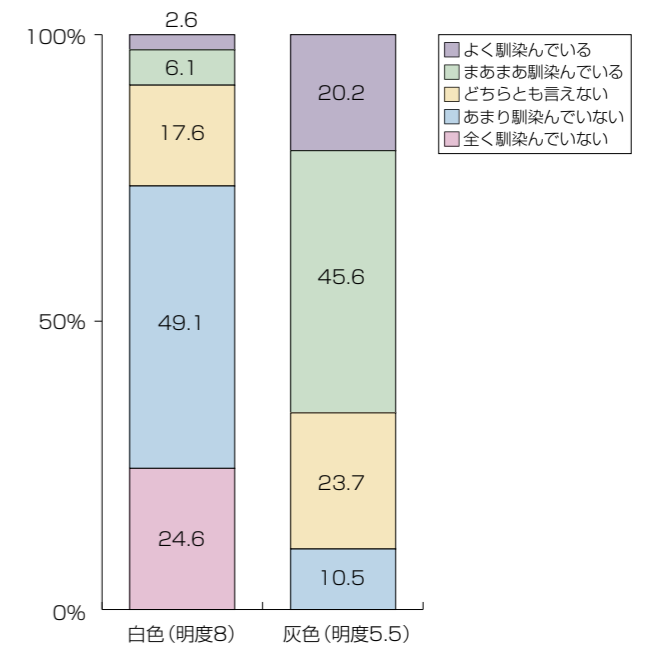


図1 明度の違いが護岸景観に与える影響